

平成 29 年度事業計画書

公益財団法人大阪市博物館協会

はじめに

平成 29 年度、大阪市博物館協会は設立 8 年目、公益財団法人としては 6 年目を迎える。これまで、大阪市から受託している博物館・美術館の管理運営は、当協会設立当時の平成 22 年度から平成 25 年度までの 4 年間と平成 26 年度のみ計 5 年間の指定管理者の指名を受けた。平成 27 年度以降については、停止条件付で平成 31 年度末までの 5 年間にわたり、大阪歴史博物館、市立自然史博物館、市立美術館、市立東洋陶磁美術館の 4 館の指定管理者の指名を受けることとなった。

当協会においては各種の事業を施設ごとに、また相互に連携しながら実施しており、平成 29 年度についても 5 ページ以降の事業を予定しているが、ここでは公益財団法人への移行を認定された「1. 協会事業の位置付け」と協会の「2. 平成 29 年度の取り組み」「3. 当協会を取り巻く状況」について記しておきたい。

1. 協会事業の位置付け

協会事業を「公益目的事業」「収益事業等」として位置づけ、平成 24 年 4 月から公益財団法人として事業を実施している。

(1) 公益目的事業

この事業については次の 9 事業で構成されており、隣接する分野の事業を相互に連携し総合力を発揮することがより効果的であることが位置付けられている。

- ① 埋蔵文化財の発掘調査と保存科学分析事業（受託事業）
- ② 文化財や博物館関係資料の調査研究事業（自主事業）
- ③ 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用事業（自主事業）
- ④ 文化財等資料を活用した展示・公開事業（自主事業）
- ⑤ 講座等による教育普及や人材育成事業（自主事業）
- ⑥ 体験活動事業（自主事業）
- ⑦ その他活動（自主事業）
- ⑧ 文化財関連施設管理・活用事業（受託事業）
- ⑨ 大阪市立博物館・美術館管理運営事業（指定管理による受託事業）

(2) 収益事業等

① 収益事業

施設の一部を売店・食堂等として使用することで、来館者サービスの向上やその収益を公益目的事業に充てることを目的とする事業

② その他の事業（相互扶助等事業）

友の会会員に対して行う講演会等を通じて、友の会活動の推進や会員の美術・東洋陶磁に関する公益目的事業に対する理解を深めることを目的とする事業

2. 平成 29 年度の取り組み

- ・平成 27 年度から平成 31 年度まで 5 年間の 4 館に関する「指定管理者指定申請書」における事業計画や平成 28 年 6 月に策定した経営計画に基づき、事業展開を行う。
- ・当協会中期経営計画を基本とし、引き続き協会として「ミュージアム魅力発信事業」を推進し、博物館施設や文化財事業の発信力を高めるとともに、館内やホームページ等の多言語化など、来館者サービスの向上を目的とした事業にも取り組む。
- ・広報・情報発信をはじめとする事業の実施にあたっては、広報紙の編集発行や I C T 導入など民間のノウハウを積極的に活用し、市民ニーズをふまえた、効果的な事業実施を目指す。
- ・博物館・美術館や大阪文化財研究所が連携し、「郷土大阪」に対する「愛着」や「誇り」を育むため、「学校の博物館利用促進」や「学校教育支援」に取り組む。
- ・国内外の観光客誘致にも積極的に取り組み、来館者増を目指す。
- ・協会は平成 22 年度から 3 年間外部委員による点検評価に取組み、平成 24 年度には総合評価を実施した。平成 26 年度には改めてその後の措置状況を踏まえ、外部評価委員会による事業の点検評価を行い、平成 27 年度からは提言をふまえた改善を図ってきた。平成 29 年度においては、平成 26 年度以後の 3 年間の取り組みについて総合的な評価を実施する。

3. 当協会を取り巻く状況

大阪市においては、平成 28 年 12 月、博物館群のめざす姿やその実現に向けた取り組みとして「大阪市ミュージアムビジョン」が策定され、その実現にふさわしい経営形態は地方独立行政法人であるとしたうえで、本年 2 月、「博物館施設の地方独立法人化に向けた基本プラン(案)」が取りまとめられ、その中で地独法人を平成 31 年 4 月の設立をめざすとされている。現在、地独法人化にかかる予算案が大阪市の市会に上程され、審議されている。

上記予算案が承認されると、大阪市において地独法人設立に向けた具体的な取り組みと調整が進められることとなるが、地独法人化に併せて関連する外郭団体を廃止する方針が示されていることから、今後、当協会として、当協会が行ってきた諸事業の円滑な継承、文化財研究所のあり方、職員の雇用の確保など様々な課題について検討し、大阪市、大阪市教育委員会及び関係先と協議・調整を行う必要がある。

I. ミュージアム魅力発信事業

大阪市博物館協会では、ホームページの充実やSNSの活用による臨機応変な情報発信をさらに進めるとともに、来館者サービスの向上を目的に、ホームページ・パンフレット・展示解説等の多言語化、観覧料のクレジット決済導入の検討、民間ノウハウを活用したミュージアムグッズ開発、受付などのホスピタリティ向上等の取り組みを進める。

総務部では各館所が上記の取り組みを推進するにあたっての条件整備や調整、外部資金の獲得等に努めるとともに、「ミュージアム魅力発信事業」として、以下の取り組みを各館所および関係機関・団体や学校・大学等との連携を図りながら進める。

広報・情報発信については、民間事業者等との連携を図りながら引き続き強化していく。「学校連携」「大学連携」についてもミュージアムの魅力を発信する具体的な取り組みを進める。

1. さまざまな情報発信

各館における展示や施設に関する情報の多言語対応やホームページの充実につなげるため、大阪観光局などの関連部局や民間事業者等とのネットワーク、文化・観光の多様なチャンネルを活かしたプロモーションの強化をはかり、外国人をはじめとした観光客の積極的獲得に努める。

平成28年度に作成した外国語版総合案内パンフレットや、文化庁補助金により制作したポータルサイト外国語版ページ等を活用し、広範囲のプロモーションにつなげていく。

平成29年度においても、協会内外の各館・機関と連携し、多言語での情報発信や環境整備に取り組むため文化庁補助金獲得をめざす。また、大阪周遊パスや交通機関が提供するサービス等々への協力などを通じて、連携を活かした広報を進める。

引き続き「Osaka Museums（大阪ミュージアムズ）」の名称で統一した広報紙・ポータルサイトおよびSNSの発行・運営を通じて、展覧会や各館所の魅力を市民に分かりやすく発信する。

2. 民間事業者との連携、民間のノウハウの活用

ICTを活用した解説手段や展示機器の導入や、ミュージアムグッズの開発などに各館が取り組んでいけるよう、民間企業との新たな連携を推進していく。市民ニーズに沿って、来館者サービスの向上や各館の魅力発信のため、民間のノウハウを積極的に活用し、効果ある事業実施を目指す。

3. 教育普及に関する連携

(1) 小・中学校との連携

小・中学校との連携については、引き続き学校利用促進チラシ「授業に役立つミュージアム活用ガイド」を活用して校園長会や教育研究会への積極的な広報の展開を図るとともに、教育委員会や教育センターとの連携を深める。また「小中学校の博物館利用の促進」

と「学校教育支援」を推進するため、教員を対象に学校団体の博物館利用を促進するモデル事業「教員のための博物館の日」を自然史博物館において実施するとともに、各館個々の取り組みを連動させた新たな開催形態での実施にも取り組む。また市立美術館において実施してきた、学芸員による小中学生の鑑賞学習を引き続き推進する。

(2) 大学や他の教育機関との連携

大学との連携については、大阪市立大学との包括連携協定に基づく事業の実施体制により、市民向け講演会・シンポジウムの開催、学芸員養成課程の博物館学関連3講座への学芸員の出講、大学教員との共同研究などに計画的に取り組む。また、キャンパスメンバーズ制度については、会員校と協力しながら学生の利用促進を図るとともに、専修学校・高等学校に加え、学部単位での入会を可能とし、会費を改定する等の制度の改善により、参加校の増加を目指す。

(3) 他館との連携

大阪市立科学館との連携については、キャンパスメンバーズのほか、講座の共催や展覧会の連携、博物館運営情報の交換、補助金獲得などについてより一層の連携を図る。大阪城天守閣とも引き続き連携を図るとともに、ポータルサイト「大阪ミュージアムズ」で情報発信の相互連携を図った市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）を含めて、より一層ミュージアムの魅力発信に努める。

4. 点検評価

各館所による自己評価をもとに、事業の成果と課題を幅広い見地から点検評価する「外部評価委員会」を平成22年度から3年間開催し、平成26年度には改めて平成24年度に実施した総合評価の措置状況を点検するとともに、これを踏まえた外部評価委員会による事業の点検評価を実施し、平成27年度からは提言を踏まえた改善に取り組んできた。平成29年度においては、平成26年度以後の3年間の取り組みについて総合的な評価を実施する。

II. 大阪文化財研究所事業

35年以上蓄積した知識と経験を活かして遺跡の発掘調査と報告書作成を行い、その文化財の保存と保管、研究成果をもとに、博物館・美術館や地域団体等と連携して文化財の公開・教育普及に努める。

近年における事業量の大きな変動へ対応し、大阪市域の埋蔵文化財発掘調査・報告書作成受託事業を中心としつつ、各地の文化財調査機関の要請による学芸員派遣や、市外における文化財の整理・保存処理等の経営に資する他の事業量の確保に努める。また、研究所学芸員の減員に応じて効率的に事業を行う。

なお、東日本大震災の復旧・復興支援の一環として、埋蔵文化財の調査と保護のため平成25・26年度の福島県、平成27・28年度の岩手県に続き平成29年度も岩手県に学芸員を派遣する。

1. 埋蔵文化財の発掘調査・報告書作成等

(1) 文化財調査受託事業

平成28年度から継続している北区大深町遺跡や難波宮跡・大坂城跡をはじめとする市内各地の民間開発に伴う発掘調査約50件に速やかに対応するほか、難波宮跡史跡整備事業や平成28年度に発掘調査した市営住宅関連の報告書を刊行して成果を公表する。また、他地域の出土文化財の整理、報告書作成等事業の情報を引き続き収集し、受託に努める。

(2) 保存処理・分析事業

市内遺跡の遺構や出土文化財を保存し、博物館展示等の活用に供するほか、他地域の出土品や文化財の保存処理・分析を積極的に受託する。

(3) 文化財関連施設の管理事業

埋蔵文化財収蔵倉庫の維持管理等、出土品を良好な状態で保存・管理するとともに、地域の文化資産として普及事業を通じた活用を図る。

2. 保存科学分析技術の開発と文化財資料への応用

金属製品・木製品等の保存処理・理化学的な分析を行う。当研究所開発によるトレハロース含浸処理法は、海底遺跡出土木製品を有効に保存できる世界で唯一の方法と評価されている。また、これ以外にも保存処理可能な資料は広範に渡り、タイ王国文化省、モンゴル科学アカデミー考古学研究所、ロシア・エルミタージュ美術館からの研究・指導の協力を要請されるなど研究の進展に対する国内外からの期待は大きく、科学研究費助成事業等を活用してこれに応えていく。

また、保存処理を施した資料を博物館・美術館の展示で活用するなど、市民への公開を積極的に進める。加えて文化財IPM（総合的有害生物管理）コーディネーターの資格を活かし、博物館・美術館での収蔵・保存・展示環境の調査等、資料の保全について協力、連携を図る。

3. 文化財に関する研究

科学研究費助成事業等の外部資金の獲得に努め、学芸員による文化財や考古学、歴史学に関する共同研究や国際交流を進め、講演会や研究紀要の刊行等で成果を公表する。

また、韓国の財団法人嶺南文化財研究院や東アジア・ヨーロッパ等の海外研究機関・研究者との国際交流を進め、大阪の歴史と文化財の研究に資する。

4. 教育・普及事業

(1) 発掘調査による資料の活用

発掘調査の成果を多くの市民に直接公開するため、大阪市教育委員会と現地説明会を開催するとともに、出土品や写真、図等を大阪歴史博物館の速報展示や常設展内での陳列、年度ごとの調査成果を総覧する特集展示「新発見！なにわの考古学」展等で活用する。

また、大阪市立の博物館・美術館等の展示へ協力するほか、各地の博物館・美術館施設、出版社等へ資料提供を行う。

また、遺跡に隣接して出土品を展示している市内各地の公共・民間施設（30箇所の展示施設：「街角ミュージアム」）へ協力する。さらに、難波宮跡公園をはじめとする史跡や、資料の照会・見学に随時、対応する。

(2) 講座等による生涯学習および人材育成

大阪歴史博物館での「金曜歴史講座」・「大阪の歴史を掘る講演会」等の講座や催しを大阪市立の博物館・美術館と協力して実施する。また、他団体が開催する市民向け生涯学習事業に対し、企画・講師派遣等で協力する。

そのほか、大学や国内外の文化財研究機関からの要請に応じて講師を派遣し、人材育成や技術指導に協力する。

(3) 地域と連携したイベント等への協力

大阪市の博物館・美術館および地域の団体と連携して、「難波宮フェスタ」等の市内遺跡と出土品を活用した体験イベントや「なにわの宮リレーウォーク」等の見学会、「中央区民まつり」・「古代市（平野区）」等の地域活動に協力する。

(4) 史跡難波宮跡の活用

難波宮調査事務所を活用し、学校教育や生涯学習の要望に応じて、史跡見学対応や難波宮跡をはじめとする出土遺物展示、関連図書の公開等を実施する。

(5) 情報発信

情報誌『葦火』等の図書を刊行・頒布し、当研究所ホームページや、大阪市立の博物館・美術館、地域団体と共同制作した「なにわ まナビ ガイド（平成23年度文化庁補助金事業で開発）」等を活用して、文化財に関する各種情報やイベント情報を発信する。

(6) 関連資料の収集・管理

文化財に関連する調査報告書およびほかの関連図書等を収集・管理し、他団体や個人の活用に応ずる。

(7) 他団体との連携

全国埋蔵文化財法人連絡協議会へ参加・協力するほか、同協議会近畿ブロックで構成する実行委員会に参画し、平成 20 年度以来毎年行っている『関西・考古学の日』を開催する。

5. 大阪市の博物館・美術館との連携

(1) 博物館協会内の連携による共催・協力

大阪歴史博物館において開催予定の特集展示「新発見！なにわの考古学 2017」等をはじめ、考古学と文化財に関する事業で共催・協力をする。

(2) そのほか

調査・研究、展示、教育普及、広報において、大阪市の博物館・美術館、他の関係機関等との連携を進め、文化財に関する事業および博物館・美術館活動の活性化に努める。また保存科学技術により、良好な収蔵・展示環境の保持と資料の保存に資する。

6. 東北復興支援ほか学芸員の派遣協力

文化庁および東北 3 県から全国に向けた、埋蔵文化財発掘調査のための専門職員派遣要請に応じて公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに学芸員 1 名を派遣する。
そのほか、各地の文化財調査機関の要請に応じて学芸員を派遣して発掘調査に協力する。

Ⅲ. 大阪歴史博物館事業

大阪歴史博物館は、市民や国内外からの来館者に郷土大阪に対する親しみや大阪の歴史と文化への関心を高めてもらうため、大阪市域の歴史や文化を対象とした展示や事業の実施、情報の発信をおこなうとともに、より広い視点に立った歴史系総合博物館としての役割を果たすことができるよう、多彩な収蔵品の活用や他の博物館等との事業連携にも取り組んでゆく。また特別展や教育普及事業に新たな話題性をもつ要素を盛り込んだり、外国からの来館者に対応するためのサービスの充実をはかり、博物館の魅力向上に努める。

1. 資料の収集、保管事業

大阪の歴史と文化に関する資料の情報収集に努め、収集方針にもとづき着実に資料の収集を行う。また新規に収蔵した資料については燻蒸を実施し、最適な環境のもとで資料の保管・管理を行う。また修復の必要な資料に対しては、保管・活用のために最適な措置を行う。

2. 展示事業

(1) 常設展示

13万点を超える館蔵品や大阪市内の発掘調査で見つかった埋蔵文化財を活用し、計画的に展示更新を行うとともに、学芸員による展示解説、ボランティアによるスタンプラリーや体験事業(ハンズ・オン)などを実施する。また、老朽化による不具合の見られる展示設備については、改修または全面的な見直しを含めて、今後のあり方を検討する。

(2) 特集展示

館蔵品や最新の埋蔵文化財の調査結果にもとづき、地域やジャンル、速報性などを考慮し、大阪の歴史と文化に関わるテーマで特集展示を開催し、リピーターの増加・定着を図る。平成29年度については、館蔵品の国重要文化財指定に合わせた「重要文化財指定記念 なにわの町人天文学者・間重富」、大阪開港150年に合わせた「おおさか町めぐり 安治川と天保山」、恒例の展示となっている「新発見！なにわの考古学」のほか、「鴻池研究の現在」、「ほのぼの俳画、生田南水」、「古文書からみる江戸時代の大阪周辺の村」の計6本を予定している。

(3) 特別展示

①特別展「渡来人いずこより」 [平成29年4月26日(水)～6月12日(月)]
ゴールデンウィーク期間中臨時開館:5月2日(火)

弥生時代から古墳時代にかけて日本と朝鮮半島とのあいだにみられた交流を、古墳時代の近畿地方を主対象としながら、朝鮮半島系文物を通してみていく。とりわけ渡来人の具体的な「出身地」に注目することで、地域間交流の実像を描きだす。

- ②特別展「大相撲と日本刀」 [平成 29 年 7 月 8 日 (土) ～8 月 28 日 (月)]
お盆休み期間中臨時開館：8 月 15 日 (火)

代々の横綱が土俵入りの際に使用した太刀など、大相撲にゆかりのある日本刀をとりあげ、相撲界における刀剣の意味を紹介するほか、化粧廻しや相撲絵、当館が収集を進めてきた大阪相撲関係資料から相撲の歴史についても知ってもらう機会とする。

- ③特別企画展「世界に誇る大阪の遺産 一文楽と朝鮮通信使」
[平成 29 年 9 月 30 日 (土) ～11 月 26 日 (日)]

大阪にゆかりの深い文化財は世界的にみても魅力的でかつ歴史的に意義深いものが少なくない。そのなかで文楽は 2009 年にユネスコ無形文化遺産に登録され、朝鮮通信使は次回のユネスコ記憶遺産登録に向けて申請中である。このふたつの文化遺産について当館館蔵品による発信をおこなう。

- ④特別展「鑿の華ー光村コレクションの刀装具」
[平成 30 年 1 月 27 日 (土) ～3 月 18 日 (日)]

大阪で生まれ近代の阪神間で活躍した実業家・^{みつわらしも}光村利藻が収集した当代屈指の刀剣刀装具コレクションは愛好家の関心のまとでありながら数が多く、さらに散逸したものもあってその全貌は明らかでなかった。本展示は主要作品が一堂に会する初の企画である。

3. 調査・研究事業

外部研究者を交えた難波宮や大阪学に関する共同研究、ならびに館蔵資料や博物館学に関する基礎研究を実施し、その成果を共同研究成果報告書・研究紀要・館蔵資料集として刊行するとともに、研究の内容をより充実したものとするため、科学研究費補助金をはじめとする各種の学術研究補助金など外部資金の獲得にも努める。

4. 教育・普及事業

学芸員による「なにわ歴博講座」や館長との対話形式を導入した講座「館長と学ぼう 新しい大阪の歴史」、外部講師による時宜に応じた内容の講演会や学術団体と連携したシンポジウム、市内の遺跡を巡る見学会、子ども向けの体験教室等を実施し、誰にでもわかりやすくかつ最先端の研究成果を踏まえた大阪の歴史・文化を学ぶことのできる機会を提供する。

5. 学校・市民等との連携

教育センターや科目別研究会と連携して小・中学校の教員研修を開催し、教員が主体となった学校による博物館利用の促進を図る。大学とは講師派遣や博物館実習の受け入れ、共同研究の実施による結びつきを強化する。さらに博物館を拠点に活動するボランティアや友の会、地域の NPO 法人等との共催事業をとおして市民団体との連携を図る。

6. 情報発信、広報宣伝

情報関連では老朽化が進む情報システムの新たな設計に取り組むとともに、日常的にはホームページやツイッターの活用を一層進め、臨機応変かつ充実した発信を行っていく。広報関連では周辺商業施設・ホテル、交通局など諸団体との連携を深め、広報の強化に取り組む。

事業紹介の印刷媒体については掲載内容の充実をはかり、迅速かつきめ細かいサービスの提供に努める。

7. 来館者サービスの向上

増加しつつある外国人来館者への対応として、昨年度の文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成により新たに追加した4ヵ国語のパンフレット情報の活用を進めるほか、案内掲示の改良や展示解説の充実を図ってゆく。また展示更新による常設展示の魅力向上やレストランと提携した割引サービスを継続するとともに、来館者案内業者・レストラン・ショップとの連絡会で得られた来館者ニーズへの対応を進める。さらにゴールデンウィークやお盆期間中の定例休館日を臨時開館し、博物館の一層のサービス向上と利用促進に努める。

8. 施設の維持管理

警備・案内・券売・清掃及び設備等の保守点検を専門業者に委託して、安全・快適な施設の維持管理と運営に取り組む。

IV. 大阪市立自然史博物館事業

大阪市立自然史博物館は、地元大阪を中心とした自然に関する展示や観察会などを通じて、市民に自然をよく知り学んでもらうためのさまざまな機会を提供し、共に自然と人間のよりよい未来を考えていくことを目的としている。この基本的な考え方のもと、平成29年度は以下の項目に重点的に取り組んでいく。

- ・ 市民参加による調査活動「プロジェクトA；大阪を中心とした「外来生物」調査プロジェクト」を実施する。
- ・ 自主企画の特別展「瀬戸内海の自然(仮称)」を企画・実施する。展示作成も含めて市民参加型で推進する。
- ・ ATCを会場とする特別展「メガ恐竜展2017」(ATC・テレビ大阪・読売新聞大阪本社と共催)を開催する。

1. 資料の収集、保管事業

動物・昆虫・植物・化石・岩石・鉱物等に及ぶ自然史資料を、大阪を中心としつつ、それと密接に関連のある資料は、日本全国さらには必要に応じて海外にまで対象地域を広げて収集する。特に、大阪との地理的關係から東アジア～東南アジア地域を重視する。

収集した標本は、マイナス45度の低温燻蒸を基本とし、必要に応じて薬品燻蒸処理を行った後、登録して収蔵庫内に最適な環境で保存し、展示や教育活動、外部利用者へのサービス等に積極的に活用する。また、これまでも取り組んできた標本情報のデジタル化や公開を今後も進めるとともに、収蔵資料目録を刊行する。

2. 展示事業

(1) 常設展示

常設展の展示資料の入替えを適宜行うとともに、子ども向け解説の増設やこれまで好評であったジオラボ、子どもワークショップ、探検クイズなど来館者と直接的に対話を行う事業を一層充実させていく。海外からを含めた多様な来館者に対応するため、展示解説パネルの多言語化を進める。

(2) 特別展示

① 特別展「石は地球のワンダー ～鉱物と化石に魅せられた2人のコレクション～」

[平成29年4月22日(土)～6月4日(日)]

ゴールデンウィーク期間中臨時開館:5月1日(月)

主催:大阪市立自然史博物館

地球の営みによってつくられた、きれいな結晶を持つ鉱物、長い地球の歴史の中で生物の進化を教えてくれる化石。そのきれいさや不思議さはコレクターを虜にし、私たちにも地球のワンダーを教えてくれる。

この特別展では、地球が生み出した不思議な石に魅了された二人のコレクターによる

北川隆司鉱物コレクションと金澤芳廣化石コレクションを中心に石の魅力を紹介する。

あわせて、日本地質学会により選定された「47都道府県の石（岩石・鉱物・化石）」を同時開催する。日本列島を形作る、複雑で多様な地質を実感してもらいたい。

特別展「石は地球のワンダー」は大阪市立科学館と共催であり、連携して開催に向けた作業を進め、自然史博物館と科学館の2館で同時に開催する。それぞれの展示で、自然史的視点・科学的視点から展示を構成することで、これまでとは異なる見方を提供し、魅力向上につなげる。また、入館料・観覧料の相互割引を実施することで、相互の館固有のファンを取り込むことによって入館者増をめざす。

<展示コーナー>

- ・ 鉱物って何？
- ・ 北川隆司鉱物コレクション
- ・ 金澤化石コレクション
- ・ 47 都道府県の石（岩石・鉱物・化石）

② 特別展「瀬戸内海の自然(仮称)」 [平成 29 年 7 月 15 日 (土) ～10 月 15 日 (日)]

お盆休み期間中臨時開館：8 月 14 日 (月)

主催：大阪市立自然史博物館

意外と知られていないが、大阪湾は瀬戸内海の一部であり、大阪は瀬戸内海に面しているのである。

平成 24 年度より進めてきた日本学術振興会科学研究費補助金による瀬戸内海の自然の総合調査をふまえ、沿岸から沖合いまでの自然環境や人々の暮らしとの関わりについて紹介する。

<展示コーナー>

- ・ 瀬戸内海の地形と自然
- ・ 瀬戸内海の漁業
- ・ 瀬戸内海を調べる
- ・ 消えた風景
- ・ 気候を活かした特産物

③特別展「メガ恐竜展 2017 — 巨大化の謎にせまる—」

[平成 29 年 7 月 25 日 (火) ～9 月 3 日 (日)]

会場：A T C ホール

主催：大阪市立自然史博物館・A T C・テレビ大阪・読売新聞大阪本社

数十メートルもの巨大な体から伸びる非常に長い首、その先にある小さな顔。それが陸上で最も巨大化した動物である恐竜 竜脚類の特徴である。竜脚類は、中生代三畳紀後期から白亜紀末までの、たいへん長い地質年代に、すべての大陸で生息していた。

そのため、最も成功した植物食恐竜であるといえる。「なぜ、竜脚類は大きくなることができたのか？」を主テーマに、その最新学説を紹介。現生哺乳類も含めて、巨大化の謎にせまる。

<展示コーナー>

- ・プロローグ 巨大化の森
- ・太古の水にすむ巨大生物
- ・巨大恐竜:ジュラ紀
- ・巨大恐竜:白亜紀
- ・哺乳類は巨大化できないのか?

3. 調査・研究事業

博物館全体で取り組むプロジェクト調査、学芸員の個別テーマによる研究、館外研究者との共同調査研究を行うほか、市民参加による調査活動として、「外来生物に関する調査」を実施する。

8件の科学研究費補助金による研究課題に継続して取り組む。さらに各種の学術研究補助金など外部資金の新規獲得にも努める。

調査・研究の成果は、学会や当館主催の学芸ゼミで発表するとともに、当館刊行の研究紀要や学会誌に寄稿する。また「自然史オープンセミナー」など市民向け講演会でわかりやすく解説する。

4. 教育・普及事業

「やさしい自然観察会」・「テーマ別自然観察会」等の野外観察会と、室内実習・植物園案内・博物館たんけん隊・ジュニア自然史クラブ・ジオラボなど博物館内で行うイベント、自然史オープンセミナーや講演会、「標本の名前を調べよう！」など多彩な事業を実施し、自然に親しみ、楽しく学べる機会を提供する。新たなメニューを開発するなど事業の充実に努める。

5. 学校・市民等との連携

総合的な学習の時間やキャリア教育など学習活動のサポート、教員向け支援プログラムの実施、教材の貸出し、TMネットワーク（自然史博物館における教員と博物館のネットワーク）による情報提供等で学校教育を支援する。

「教員のための博物館の日」を8月に実施し、博物館が進める学校教育支援事業の理解を深めてもらう。

野外観察会補助スタッフ等のボランティアを行事毎に募集するほか、月例ハイク等の自然史博物館友の会事業に協力する。自然史科学関連のNPO法人などが実施する博物館連携に関する各種事業に協力する。

11月には、大阪周辺の関連団体に呼びかけて「大阪バードフェスティバル」を開催する。

併設施設との連携についても、積極的に進める。当館は「長居植物園」内に立地しており、互いの相乗的効果を生かしていくことを大切にしている。毎月定例の相互連絡会を開催し、今後とも「長居植物園」の事業と密接な連携・協力を図っていく。植物園内「バタフライガーデン」を利用した観察会や植物園案内などを実施する。

西日本自然史系博物館ネットワークの事務局館として、館相互の連携事業、展示技術の講習など研修活動を推進する。

6. 情報発信、広報宣伝

常設展の入館者増を図るため、当館のホームページを充実し、ツイッターなど SNS も活用して、年間を通じた利用促進を図る。また、館内パンフレット、ポスター・チラシを効率的に配布し、マスコミ発信や地域情報誌掲載を含めて、博物館活動全体の広報宣伝を積極的に行う。

また、展示解説書等の出版物を刊行し、成果の公表と市民の学習支援を行う。

さらに、月例のイベントリリース、特別展などの大規模事業のリリースを市政記者クラブや科学記者クラブなどに効果的に発信する。

7. 来館者サービスの向上

魅力ある展示事業や普及教育事業の展開に努め、来館者との対話を深め、一人一人のニーズに応えられるように取り組むとともに、ゴールデンウィーク等の定例休館日の臨時開館、関西文化の日の実施等により、一層のサービスの向上を図り、利用の促進に取り組む。

昨年度の文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成で、作成した三カ国語（英語・中国語・ハングル）によるパンフレット・ホームページを活用して、近年増えている外国人来館者の展示への理解度・満足度の向上を図る。加えてホスピタリティ面では、長居植物園と連携をさらに強化し、受付案内・各種行事の共催等今まで以上にサービスの向上に取り組む。

8. 施設の維持管理

警備・案内・清掃を専門の業者に委託して、安全・快適な施設の維持管理に努める。

設備等の保守点検については、平成 26 年度より一括して設備管理の業務委託をしており、引き続き良好な施設の維持管理に努めていく。

V. 大阪市立美術館事業

大阪市立美術館は、昭和11年(1936)に開館して以来、多彩な美術作品の収集と保存、調査研究につとめながら、様々な国・地域・作者・時代における美術に関する展覧会や講演会・講座を開催し、魅力のある総合美術館として、大阪における「文化と美術の情報拠点」となることをめざしている。平成28年(2016)に開館80周年をむかえたが、平成29年度も、東アジアの古美術を中心に近代の日本画・洋画も加えたコレクション展(平常展)と、夏季の全関西美術展・冬季の日展という毎年開催する公募特別展の他に、3本の特別展などの開催を予定している。春は自主企画の木彫仏の展覧会、秋は自主企画の土佐派を中心とした近世絵画展、秋から冬にかけては巡回展のディズニー・アート展と、総合美術館としてバリエーション豊かに展覧会を開催する。こうした展覧会の展示や講演・講座の開催、リニューアルした天王寺公園(てんしば)や周辺文化施設などとの連携を通じて、市民の情操と知的好奇心を刺激し、来館者の学習支援とともに美術に対する関心を高めて、入館者と美術愛好家の増加を図る。一方、様々な展覧会や講演会、作品収集などのために美術作品の調査・研究を行い、ホームページの充実を図りながら新たな美術情報の発信を行う。また、作品の収集・保管・貸出をはじめ、老朽化した施設と設備の維持管理にも万全を期して、快適で安全な美術館運営を行ってゆく。さらに、大阪市が平成33年度(2021)着工を目指している大規模な改修に対して、美術館運営の実績等を踏まえ協力をしていく。

1. 資料の収集、保管・貸出等事業

日本や中国で制作された絵画・彫刻・工芸などを中心に、寄贈などによる館藏品と社寺や個人から預かる寄託品のさらなる収集に努め、優れた収蔵品の増加を図る。また、美術作品を適切に保存・管理するための収蔵環境や、照明・展示ケースなどの展示環境・空気環境の調査を行なって東京文化財研究所の指導を受け、一定の空気環境の改善を図ったが、今後も作品環境のモニタリングを継続していく。一方で平成28年度には大阪市によって展覧会室関係の空調機器のオーバーホールなども行うことができたが、ようやく様々な種類の作品を適切に展示できる環境を一定整えることができるようになってきた。また、平成28年度には収蔵庫とその周辺に関するIPM管理(総合的有害生物管理)による、清掃・温湿度調整と環境測定を実施しているが、平成29年度についても引き続き実施していき、収蔵庫などの有害生物管理の方向性の考え方の作成とその有効性の検証をしてゆく。

こうした展示環境のもとで、館藏品や寄託品をコレクション展(平常展)や特別展・特別陳列で展示して市民の情操に資するとともに、展示期間を調整しながら他館の展覧会へも依頼に応じて貸出をし、加えて他の研究機関などによる調査や研究のための特別研究にも供する。

また、大阪市と協力して館藏品の修復を行なうことにより、将来的なコレクション展の魅力造りを、今から実行していく。

2. 展示事業

国宝、重要文化財の勸告承認出品館及び公開承認施設として、館蔵品や寄託品等の美術作品を展示してより広く市民に紹介することに努める。そのため、一定のテーマによるコレクション展（平常展）の開催や、館独自の企画に基づいて特別に所有者から作品を借用する特別展や特別陳列の開催と、マスコミなどの共催者とともに開催して日本の各地を巡回する多様な内容の特別展の誘致に努める。これらの展示事業を通じて、市民の文化や情操・教養の向上と学習の支援をはかりながら、学術の発展にも寄与することを目指す。

(1) コレクション展（平常展）

市民をはじめ来館者の美術に対する関心を高め、美術を愛好する人々を増やすために、館蔵品と寄託品から構成されるコレクション展を開催する。コレクション展は、当美術館活動の根幹と位置づけ、ホームページ等による広報をさらに充実する。また、多彩な小テーマを設定して、日本や中国の美術を見る楽しさを実感できるような展示を行うとともに、最新の学術的知見を展示の中に反映させてゆく。

(2) 特別展・特別陳列

学芸員の調査研究の蓄積を基礎に、利用者のニーズを踏まえながら魅力あるテーマを設定し、自主企画による特別展を開催する。また、全国を巡回する集客性が高く充実した内容の展覧会を誘致し、総合美術館として多様なテーマの展覧会を開催する。さらに、館蔵品・寄託品などの作品を中心に、やや大がかりな新しいテーマで展示内容を再構成し、広報費や簡易な図録制作費などを予算化した特別陳列も自主企画により開催する。

①特別展「木×^{きとぶつぞう}仏像—飛鳥仏から円空へ、日本の木彫仏 1000 年」

〔平成 29 年 4 月 8 日（土）～6 月 4 日（日）〕

ゴールデンウィーク期間中臨時開館：5 月 1 日（月）

主催：大阪市立美術館、産経新聞社

仏像には様々な素材が用いられるが、日本では木を用いた仏像、木彫仏が長い歴史を通じて作られ続けてきた。本展では、7 世紀の飛鳥仏から江戸時代の円空仏まで、重要文化財 20 件を超えるおよそ 70 体の木彫仏を一堂にし、1000 年の歴史の中で日本の木彫仏が木材の種類に対して強いこだわりを持ちながら造像されてきたことを振り返る。日本人は、人の寿命を遙かに超えて、長い風雪に耐えて大地に立ち続けてきた樹木を、古来より霊木・神木と呼んで畏敬の念を持ってあがめてきた。一方、釈迦の生涯の要所も、無憂樹、菩提樹、沙羅双樹などの樹木によって彩られ、経典類にも白檀などの特定の木材の使用を規定する記述も見られる。実際の作例にも、特定の樹種の木材を意図的に選択した木彫仏や、社寺の建築部材を転用して古材の持つ霊験性が転嫁された木彫仏など、木と仏像の関わりを示す作例も多い。本展では木と仏像を鍵としてこうした日本文化の本質を紹介してゆく。なお本展は、当館学芸員による文部科学省の科学研究費助成事業における調査研究成果を活用しており、学芸員の研究成果を市民に発信するよい機会としたい。

②特別展「第 63 回全関西美術展」

[平成 29 年 7 月 7 日 (金) ~7 月 19 日 (水)、7/13(木)休館]

臨時開館：7 月 10 日 (月)・18 日 (火)

主催：大阪市立美術館、読売新聞社

大阪の芸術振興を図るため、昭和 16 年に「大阪市展」として発足した公募展。日本画・洋画・彫刻・工芸・書の 5 部門から構成され、新人作家の登竜門とも呼ばれている。平成 28 年度からは外部有識者を加えた審査方法などの改革と刷新を行い、経営面での改善も図った。応募作品の中から選ばれた入選作品と関西在住の招待作家の作品、あわせて約 900 点を展示し、関西における現代美術の動向の一端を概観する。

③特別陳列「土佐光起 生誕 400 年 近世のやまと絵の開花」

[平成 29 年 9 月 2 日 (土) ~10 月 1 日 (日)]

主催：大阪市立美術館

平安時代以降、中国的な主題を扱った唐絵に対するものとして、日本的な風景や花鳥、王朝風な物語や風俗などを描いた絵画をやまと絵という。土佐派は、やまと絵の中心となる家系で、宮廷の絵所絵師の系譜を引き、室町期に土佐氏を号して隆盛を極めた。室町末期に後継者が戦死したため堺に居を移し、町絵師として画系を維持したが、江戸初期には土佐光則が再び京都に移り、その子土佐光起 (1617~91) は承応 3 年 (1654) に宮廷絵所預に任じられて土佐派の再興を果たした。本年は光起の生誕 400 年にあたる。本展は、伝統的なやまと絵に狩野派や中国絵画の表現を巧みに融和させ、江戸期の新たなやまと絵様式を確立した光起とその子光成らの作品を中心に、収蔵品と近畿周辺の所有者からも美術作品を拝借して、物語絵、歌仙絵、名所絵のほか、肖像画、花鳥画など幅広い主題の作品を一堂にし、雅やかな「和」の情趣にみちた近世やまと絵の世界を紹介する。なお、本展は、(公財) ポーラ美術振興財団の調査研究助成を得て、堺市博物館、和泉市久保惣記念美術館などと連携しながら調査と研究を進め、さらに(財) 地域創造の展覧会助成を得るなど、外部資金を獲得しながら開催するものである。

④特別展「ディズニー・アート展 <<いのちを吹き込む魔法>>」

[平成 29 年 10 月 14 日 (土) ~平成 30 年 1 月 21 日 (日)、12/28-1/2 休館]

クリスマス・年始の臨時開館：12 月 25 日 (月)・1 月 3 日 (水)・4 日 (木)

主催：大阪市立美術館・読売テレビ・読売新聞社

ミッキーマウスの誕生作となった『蒸気船ウィリー』にはじまり、『白雪姫』『ダンボ』など初期の作品から『アナと雪の女王』『ズートピア』、最新作の『モアナと伝説の海』(2017年3月10日日本公開)に至るまで、約 1 世紀にわたるディズニー・アニメーションの歴史を紐解く展覧会を開催する。ディズニー・アニメーションでは、クリエイターたちが想像力を飛ばたかせてスケッチを重ね、その時代の最新技術を駆使することによって、登場者たちがアニメーションとしていきいきと動き出す技=〈魔法〉が生み出されてきた。

本展では、アニメーションの基本となった原画やスケッチ、マケット、コンセプトアートなど約450点の作品を一堂にして、アニメーションとして動き出す以前の造形が創造されていく軌跡を明らかにする。子どもから大人まで多くの人々を虜にしてきたディズニー・アニメーションの「いのちを吹き込む魔法」の秘密に迫っていく。

⑤特別展「改組 新 第4回日展」 [平成30年2月24日(土)～3月25日(日)]

主催：大阪市立美術館、公益社団法人日展

審査方法と組織改革などを行って公平性・透明性を確保し、生まれ変わった「改組 新 日展」の第4回展を開催する。平成29年度も日展所属の会員などの作家の作品やこの年の入選作品による基本作品と、大阪・奈良・和歌山・兵庫の4府県の地元作家の入選作品とのあわせて約600点を展示し、日本の具象美術における最新動向の一端を概観する。

3. 調査研究事業

開館以来の調査研究活動の実績をもとに、他の博物館施設や各学会との連携を行って独自企画の展覧会を実現させ、講演会・シンポジウムなどを開催するとともに、国内外の各種学術雑誌や大阪市立美術館発行の図録・紀要などにエッセイや論文・資料紹介などを掲載する。

また本年は、特別陳列「土佐光起 生誕400年 近世のやまと絵の開花」の開催に向けて(公財)ポーラ美術振興財団の調査研究助成を得て、堺市博物館、和泉市久保惣記念美術館などと連携しながら調査と研究を進めている。

加えて、平成25年度に科学研究費助成の申請対象研究機関として指定を受けて以降、今年度も申請を行い科学研究費を獲得して、外部資金を活用しながら研究を進め、その成果を様々な場で積極的に発表し、今後のさらなる学術発展に寄与していく。

4. 教育・普及事業

大学との連携事業として、学芸員養成講座における博物館実習生に対する館園実習を実施し、また将来学芸員を目指す大学院生を対象としたインターン(研修生)研修を実施する。

さらに、小中学校における美術の鑑賞学習などの学校行事にも学芸員が対応し、教員からの美術教育への相談に応じながら、児童・生徒に美術に関する充実した学習の機会を提供するとともに教職員研修なども実施していく。加えて、小中学生や市民を対象とした絵画制作などの体験学習会「美術館へ行こう」を春・夏・冬にそれぞれ開催する。

5. 学校・市民等との連携

各種市民団体などによる団体見学を誘致し、作品解説等を行なって市民が美術により広く触れる機会を提供するほか、各種団体との協働に努めて、幅広い市民ニーズに対応できるよう様々な事業の検討と実践に努める。特に、天王寺区役所、浪速区役所や地元の団体・企業などとも連携して、ポスターの掲示やコンサート等のイベントを開催し、地元との協働に努める。加えて例年実施している民間企業との障がい者のための特別鑑賞会の実施にも継続し

て取り組んでいく。

また、天王寺動物園、「てんしば」の愛称で市民の憩いの場にリニューアルした天王寺公園、新世界・通天閣エリア一带の魅力創出事業として開催される各種事業、などについて、天王寺動物園事務所や地元各種団体と連携し取り組んでいく。

6. 情報発信・広報宣伝

ホームページの一層の充実をはかり、市民や多様な利用者に対して、展覧会や各種イベント、お知らせ等の情報をリアルタイムに提供できるように努める。また、学芸員による展覧会の見所や最新の情報等を分かり易く掲載し、より多くの人々が美術館に興味や親しみを抱けるように、情報発信力を強化する。また、展覧会スケジュールや特別展・コレクション展（平常展）の情報を掲載した広報誌「美をつくし」を、年2回（3月、9月）発行するとともに、展覧会開催ごとに市内の各種施設をはじめ地下鉄などへのポスター・チラシなどを配布、さらに大阪市の各所属が発行する広報誌やメディア各社への情報提供を通じて、新聞・雑誌などの媒体で広く広報・宣伝活動を行う。さらに、グーグルアートへの作品画像の提供により美術館の優れたコレクションを世界にアピールしていく。

また、大阪市や関係先と連携して天王寺公園エリアの魅力向上を目指していく中で、近鉄不動産の協力を得て、「てんしば」入り口付近のデジタルサイネージやポスターにより当館の展覧会情報を掲示しているが、新たに、天王寺公園内にデジタルサイネージを美術館が設置・運営し、展覧会情報や美術館の魅力を発信していく。

7. 来館者サービスの向上

天王寺ゲートから美術館への案内サインや館内のサイン表示の改善をはじめ、展示品のわかりやすい説明など観覧者にやさしい環境作りを行う。また、ご意見箱や受付窓口に寄せられる利用者の要望やアンケート調査の分析結果などを職員が共有することにより、市民の生の声を的確に美術館活動に反映させ、来館者のサービスの向上に努める。

昨年度の文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成で、多言語化したホームページを活用し、近年増えている外国人来館者の対応・充実を図る。

また、ゴールデンウィークやお盆休み期間中の定例休館日の臨時開館、特別展における夜間開館などにより、一層のサービスの向上を図り、利用の促進に取り組む。

8. 施設と設備の維持管理

施設と設備の点検を日常的に行うとともに、限られた予算を有効に活用しながら、経常的な修理・修繕に取り組み、施設と設備の維持・管理に努める。また、作品の保護と保全に関する空調能力の維持、および展示室・展示ケース等の空気環境の維持や、利用者が安全かつ快適に利用できるような施設・設備の改善に取り組むとともに、施設を衛生的に保持し、館内外の美観保持にも努める。

さらに、人と機械による24時間警備を行うなど、作品と利用者にとって安全面での施設

の維持管理に努める。

9. 美術研究所・友の会事業

美術研究所が行っている実技指導・コンクール・体験学習会「美術館へ行こう」などの事業と、友の会が実施している毎週日曜日の絵画教室「日曜洋画会」などの事業の双方を協会の自主事業と位置づけ、美術研究所・友の会運営委員会を開催し、双方の有機的な連携を図りながら、技術の向上と美術の振興に寄与する。

VI. 大阪市立東洋陶磁美術館事業

東洋陶磁美術館は、大阪市が世界に誇る「安宅コレクション」「李秉昌コレクション」などの東アジアの陶磁器コレクションを収蔵・展示する陶磁器専門美術館である。優れた館蔵品による平常展示を、より多くの市民に紹介することによって、東洋陶磁の魅力をアピールし、市民の文化や教養の向上に寄与することに努めている。また、市民からの要望が高い分野の美術工芸品を紹介することにより、陶磁器愛好家にとどまらない利用者層の拡大もめざしており、開館 35 周年を迎える平成 29 年度は、5 年ぶりの西洋磁器の特別展として、日本と中国の磁器に着想を得て発展し、昨年開窯 190 年を迎えたハンガリーのヘレンド窯の全貌を紹介する。さらに、中国甘肅省慶城県で発見された唐の遊撃將軍、穆泰（660-730）墓出土の胡人俑等約 80 点を日本で初めて紹介する特別展を開催し、シルクロードを通して繁栄を極めた唐時代に活躍した胡人の生き生きとした様子をすぐれた作品により紹介する。これに併せて、国立国際美術館のコレクションによる、現代の人物彫刻を紹介する連携企画を開催し、現代美術の受容層にも古陶磁の魅力に触れてもらう機会とする。また企画展として、現在世界でもっとも注目される美術品コレクターの一人伊勢彦信氏の中国陶磁のコレクションを、パリの国立ギメ東洋美術館との国際巡回展で紹介する。これらの事業を広報普及活動により積極的に情報発信し、広く市民に観覧の機会を提供する。

1. 資料の収集・保管事業

収蔵資料を基に、より特色のある質の高いコレクションの形成のため高い専門性を生かして効果的、効率的な収集計画を作成する。また、芸術的あるいは資料的価値の高い作品の寄贈受入に努める。それらを適切に保存・管理するため、収蔵環境を整え資料の保全を図る。

さらに、東洋陶磁その他これに関する研究資料、文献、写真等を収集・整理し、東洋陶磁の研究拠点として充実を図る。

2. 展示事業

(1) 平常展（常設展）

安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁の中から代表的作品を中心に約 300 点をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示する。あわせて、沖コレクションの鼻煙壺約 100 点を展示し、陶磁器以外にも中国の美術工芸品を紹介する。

また、昨年度寄贈された金子潤作品の公開を行うとともに、平常展に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約 20～30 点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展を次のとおり開催する。

①「宋磁の美」 [平成 29 年 8 月 12 日(土)～9 月 10 日(日)]

夏休み期間中の臨時開館：8 月 14 日(月)

館蔵の中国宋時代の陶磁器を中心とした約 30 点により、宋磁の多彩な魅力を紹介する。

②「中国陶俑の魅力」 [平成 29 年 12 月 16 日(土)～平成 30 年 3 月 25 日(日)]

海野コレクションなどの館蔵品を中心とした約 20 点により、中国陶俑の多彩な魅力を紹介

する。

(2) 特別展

①「ハンガリーの名窯 ヘレンド」

〔平成29年4月8日(土)～7月30日(日)〕

ゴールデンウィーク期間中の臨時開館:5月1日(月)

1826年、ハンガリーの首都ブダペストから南西に約110キロを隔てた小さな村ヘレンドで、磁器の生産が始まった。ハプスブルク皇帝の保護を受け、高い水準に達したヘレンド窯の製品は、1851年のロンドン万国博覧会でヴィクトリア女王からディナーセットの注文を受けたのを機にその名をヨーロッパ中に知らしめることとなる。その後も、東洋磁器に学んだ独自の様式を生み出して毎回の万国博覧会で受賞を重ね、高い評価を保ち続けた。

19世紀末、時流が大量生産へと向かう中で、手作業にこだわり常に最高のものを目指したヘレンド磁器は、ヨーロッパの多くの王侯貴族に愛され、名実共にハンガリー芸術を代表する存在となった。

本展では、ブダペスト国立工芸美術館、ヘレンド磁器美術館、ハンガリー国立博物館などが所蔵する約230点の作品により、ヘレンド窯190年の歴史と魅力を紹介する。

②開館35周年記念・日中国交正常化45周年記念「唐代胡人俑—シルクロードを駆けた夢」

〔平成29年12月16日(土)～平成30年3月25日(日)〕

中国の唐時代にはいわゆる「シルクロード」を通して、世界各地から様々な人々や文物がもたらされた。その代表が、「胡人」(ソグド人など西方異民族)であり、唐時代の墓からは様々な姿態の胡人俑(俑=副葬用の人形)が出土している。なかでも、甘肅省慶城県で発見された唐の遊撃将軍、^{ほくたい}穆泰(660-730)墓出土の一群の胡人俑は、胡人の姿を生き生きと表現した作品であり、胡人俑中の最高傑作といえる。本展ではこの穆泰墓出土の胡人俑等約60点を日本で初めて紹介する。

なお、本展に併せて、特集展「中国陶俑の魅力」ならびに国立国際美術館との連携企画「いまを表現する人間像」も同時開催する。これは、大阪の文化的中心の一つである中之島地区で、開館35周年を迎える当館とともにその中核を担ってきた国立国際美術館の開館40周年を記念し、同館の所蔵品から現代美術の人物彫刻約15点を展示するものである。唐時代においても特異で最先端であった造形表現が、いかに現代的な魅力を持つものか、現代作家の創造性と対峙させることで体感してもらおう初めての試みである。

(3) 企画展

①「イセコレクション - 世界を魅了した中国陶磁」

〔平成29年9月23日(土・祝)～12月3日(日)〕

世界でもっとも注目される美術品コレクターの一人である伊勢彦信氏のコレクションは、これまではその一部の公開がされていたが、今回はそのコレクションの真髄といえる中国陶

磁の数々を紹介する国際巡回企画展を、パリの国立ギメ東洋美術館と大阪市立東洋陶磁美術館の2館で開催する。

ギメ美術館で、「日本人の美意識によって選り抜かれた中国陶磁」として紹介されるようにイセコレクションは、古来より中国美術を「唐物」として珍重し、茶の湯の中で「用の美」として独自の美意識を培ってきた日本の伝統的な感性と、陶磁器を美術品として観賞する現代的な感性の両方を併せ持っている。また、中国文化への深い理解に基づいた中国陶磁のコレクションはまさに光彩を放つものといえる。これらの感性によって収集された戦国時代から清時代までの中国陶磁を、重要文化財2点を含めた約70点で紹介する。

3. 調査・研究事業

東洋陶磁その他美術に関する調査研究事業として、科学研究費等の外部資金の活用も含め、中国陶磁、韓国陶磁、日本陶磁に関する研究・窯址調査等を行い、その成果を展示・講演活動等により市民へ還元するとともに、学会での研究発表などにより学術の発展に寄与する。

4. 教育・普及事業

(1) 講演会等の実施

展覧会の内容の理解促進や、調査研究の成果を還元するため講演会、講座、研究会等を開催する。

- ① 特別展などにおける外部講師による講演会の開催
- ② 講座、レクチャーなどの開催
- ③ 東洋陶磁学会、民族芸術学会などとの提携による研究会などの開催

(2) ボランティアによるガイド事業

平常展の展示期間中、土・日・祝日の午前と午後にボランティアによるギャラリーガイドを行う。平日も予約によるガイドを実施。ボランティアガイド事業の充実を図るため、学芸員が随時研修を行う。

5. 各種団体との連携

協会が運営する各館・所との連携強化を図るとともに、各種団体、学校等との連携により、効果的な広報活動と入館者へのサービスの充実を図る。また、周辺各施設と連携し、中之島地域の活性化に協力する。

6. 情報発信・広報宣伝

ホームページをより一層、充実・活用して、展覧会情報等を分かり易く掲載するなど、情報発信力を強化する。また、館案内パンフレット、年間展示予定、ポスター・チラシ、マスメディアなどにより、東洋陶磁美術館の活動を広く周知し、来館者の増につなげる。

グーグルアートなどとの提携により、優れたコレクションを世界に向けて情報発信する。

入館者に対するアンケート調査を随時実施し、入館者の要望等を事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かす。

7. 来館者サービスの向上

来館者のニーズに応じた案内サインの改善、解説などの外国語表記の充実、ボランティアによるギャラリーガイドなど、サービスの向上に努める。

また、昨今の外国人来館者の増加に伴い、Free Wi-Fi 接続の要請も高まる中、当館でも昨年度4月から Osaka Free Wi-Fi Lite を導入し、継続してサービスを提供していく。

昨年度実施した、Beacon システムを利用した来館者サービス(館内誘導、日本語による常設展示の音声ガイド、外国語(英・中・韓)による常設展示の作品解説など)の実証実験の評価を踏まえ、同様に昨年度の文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成で作成した外国語(英・中・韓)による作品解説音声データを活用して、日・英・中・韓の4か国語による常設展示の音声ガイドの作成・活用を促進する。

また、ゴールデンウィーク等の定例休館日の臨時開館により、一層のサービスの向上を図り、利用の促進に取り組む。

8. 施設の維持管理

利用者が安全かつ快適に施設を利用できるよう全ての施設、設備の適切な維持管理を行う。

9. その他事業

(1) 出版等事業

展覧会図録、館蔵品図録、関連書籍、ミュージアムグッズなどの製作・販売を行う。

ミュージアムグッズについては、来館者から寄せられる要望を反映した新規商品の製作を行う。

(2) 友の会事業

友の会は、東洋陶磁美術館の存在意義を評価し、収集・調査・研究・学术交流等の活動を側面的に支援して、美術館の一層の発展と充実を図ることに賛同する会員で組織されている。

講演会などを通して会員へ東洋陶磁に関する情報提供等を行う一方、美術館の利用促進や普及活動などに会員の協力を求めるなど相互連携を図る。